

刊夕日六十月十



定額一圓五角... 發行所 常警毎日新聞社

小賣商店の新らしき脅威 (二)

(消費組合と購買組合の競争)

3. T Y 生

東京の購買組合

組合数の最も多い東京に於ける消費組合即ち市街地購買組合の状況はどうかと云ふに同じく産業組合中央會の調査昭和五年末現在によると組合數二十六、出資口數六萬二千八百口、出資總額五十三萬四千二百六十六圓、拂込済出資額四十五萬八千七百八十七圓、諸積立金十二萬四千九百二十八圓、購買品賣却高二十五百十六萬四千六百五圓、預金十二萬一千六百六十六圓、借入金六十五萬四千二百八十圓、剩餘金四萬六千三百九十九圓であつて各組合の組合員數購買品賣却高は左の如くである。

(略)右組合の内其後合併したるもの分裂したるもの等の移動があつて現在の組合數は二十三である、取扱品は生活必需品に目標が置かれてあるだけに米其他の家庭用品である、此購買品賣却高を百貨の販賣高に比較すると雲泥の差があり、頭で問題にならない少額である、従つて現在の處では商人に對しての影響極めて輕微であるから商店人は之を

問題にして居らないのであるが今後何年かを経過して消費組合の發達が顯著になつたならば商店街だつて百貨店以上の重要さを持つ問題となるであらう。

地方商人の没落

勿論前記組合中には業績不振のものもあるものであつて悉く健全なる發達を爲してゐるものとは認め難いが健全なる發達を爲して効果をあげてゐるものもあるものであり、更に時運進展消費階級の覺醒によつて將來消費組合の新設さる可きものが次第に多きを加へるであらうから古人が之を對岸の火災視し素人の營業として一笑附し難い來るべきこと

ノート

蕃椒や山葵は咳の出る時は禁物だが生姜は反對に咳を鎮める水飴に生姜を混ぜて用ひるのはそのためだ

が察せられる、現に地方にありては購買組合の發達により商人が大打撃を蒙つてゐる場所が少からずある。地方の購買組合は府縣聯合會の手を通じて全國購買組

聯合會俗に全購聯と云ふから經濟用品消費用品を購入して組合員に配給する外組合主催の仕入も行つて配給するのであり殆ど萬屋の觀を呈してゐる、試みに全購聯の取扱品目だけを拾つて見ても、地下足袋、ゴム

靴、運動靴、各メリヤス、靴下、サルマタ、夏縮シヤツ、小學生服、作業服、スレン長ズボン、防水マント、石鹼、學用品、事務用品、齒磨、齒ブラシ、チリ紙、障子紙、マツチ、菓子、年末魚類、銘茶、家庭薬、自轉車、リヤカー部分品、農薬、藥品、砂糖、石炭、無煙炭、礦性、船具、漁網、肥料油等で今後更に取扱はんとする計劃品目は左記の如くで取扱範圍の擴大を圖つて居り就中衣食住に主力を注がんと居る。

足袋、手袋、事務服、織物糸、綿類、帳簿、頁印刷物米穀、食料品、農具、薪炭、墨表、釘、セメント、トタン、硝子、種苗、カー

バイト、陶器、荒物、發動機、諸機械、之等の商品を全購聯に於いて大量に購入し或は自己生産の領域を蠶食し來ること甚大であり地方商店は百貨店の一時的なる出張賣出しの比にあらざる大脅威を感じて居る。

者の矢に注意南北凶、二黒、病氣怪俄或は純れ混雜に苦勞の生ずる事あれば萬事に注意未申と丑寅凶、三碧、金錢問題か希望事件で家内に風波を起す事あれば剛氣を起す勿れ東西凶、四謙遜以つて交際が吉戌亥と辰巳凶、五黃、病氣怪俄盜難及び厄介者の心配あれば萬事に注意肝要、六白、縁者の依頼に依り金錢問題に苦勞する事あるも戌亥と辰巳の奔走は凶、七赤、金は手に入らぬ貴ひ物あり長男長女の喜悅のある吉日なり東西凶、八白、病氣怪俄純れ混雜の心配ある日なれば外害は凶、未申丑寅が凶なり、九紫、公事に關して我身屯底に陥る凶を醸す事あれば水火の難にも注意南北凶

神嘗祭、【白】何となく複雑の件多く頭痛鉢巻と云ふ苦勞醸すの日なれば部下の

難波 内科一般 醫學博士 難波 睦 平町大町新川端 電話五〇二

秋の流行は三井 本場 銘仙の各種 斯界の新柄 毛斯リン着尺の粹 三井呉服店 平三三三八番

旭硝子株式会社製品 赤菱印 板ガラス 硝子 壺 硝子 食器 其他各種 松崎硝子製作所 平町新川町(電話一四二番) 仙臺市榮町(電話五九七番)

吸入用酸素純度99% 度量衡 寒暖計 關内藥局 電話四〇番

中村齒科醫院 魚清食堂 出前持 見習 各々二三三名 右大至急入用 平町二丁目 電話六三三番

月曜是非

近くを凝視

今回の平署に於ける放火魔逮捕は近來の大手柄である、横山署長は此の檢舉の出來ると出來ざるは平署の權威にかゝるものとして署員を激勵し、署員又よく署長の意を体して日夜此の探查に没頭し、想像以上の苦心を重ねた。

而して隠現出沒自由自在に其の筋の眼をかすめ燃え上る火災に悪魔の呪ひを託して居た怪犯人は意外にも火防組合長の仕業であると知れた。

筆者は十数日前、横山署長と怪火犯人に就いて語り合つた、其際「犯人は消防關係等の意外に手近な方面に潜伏して居るのではあるまいか」と述べた、然るに偶然にも、捕えて見れば是れが火防組合長であつたのだ、幾人かの嫌疑者もモノにならず、全く一時は五里夢中の間を彷徨して捜査に業を煮やした、此の事件の主人公は、實に平署の足許にとぐるを巻いて居たのである、今になつて思ひば犯人が餘りに近くにあつた爲めに反つて檢舉に非常な骨折りを感した結果を見たのだ。

人はよく向ふ側を見てこちら側を忘れる、否、こちら側は見えないのだ、天上をのみ見る鳥差しが足許の小石につまづく例も、醫者の不養生や紺屋の白袴、

者我身を知らず等皆此處から起り、此處の道理を示す高遠な理想を追ふもよいが手近な處にある真理を忘れはならない。

怪火犯人の苦心檢舉は吾人の日常生活にも種々の意味で考へさせられる點が尠くないと思ふ。

四倉の秋繭

總取引の状況

四倉繭市場最終日の昨十五日の取引總數は六百四十二貫、最高三十六圓八十錢、最低三十六圓、馴三十四圓五十錢であるが同市場秋蠶取引總數は四萬五千五百三十六貫二百多、代金十七萬三千八百八圓七十四錢で平均相場は最高四十六圓八十錢、最低二十六圓、馴三十八圓二十錢となり春蠶に比較すると三割五分一萬七千餘圓減額を見た

女兒繼走

磐女への申込

既報明日の磐女秋季陸上運動會の呼びもの郡下小學校女兒童四百米繼走の申込みは昨日迄締切つたが出場校は平第二及び第三、好間赤井、江名、高久、草野の七校で豫選の組合せ其他競技に關する打合せは明日行ふと

X會展の入賞者

昨日から訓盲院に開催

既報警中美術部第四十一回X會展覽會は昨日より警城訓盲院に於いて開催出品點數は油繪五十點、水彩畫二百五十點、計三百點に達したが入賞者は左の如く美友會賞は五年秋武義君の作「真夏の午後」に決定した因に開催期間は明日迄である

- (風景) 一年渡邊和夫(農家) 同大塚静義(風景) 二年石井敏光(小川) 同北部正明(港) 三年小沼武(静物) 同鈴木弘(鶏小屋) 同箱崎彰(船) 同小林房治(盆踊) 同酒井美世

十一錢高

大浦の共米

石城販賣利用組、大浦農業

倉庫の共同販米は昨十五日執行合計六十四俵を入札の結果四等建値一俵八圓四十六錢を以つて大浦村鈴木巳之吉氏に落札されたが前回に比較して十一錢の高値を見た

大嶺氏の寄贈

平町小學校保護者會副會長大嶺庫氏は過般の火災に際し保護者會より受けた見舞の返禮として本日各小學校に對し備へ付鉛筆削器四ヶ宛を寄贈した

各分團攻守共に

鮮やかなプレー

合にくの降雨で中止

既報平町青年團主催の各分團對抗式野球大會は昨日午前八時より警中、平商、第一各グラウンドに於て石城佐藤、熊各球審の下に開始され各チームは應援團や一般觀衆の聲援を受け攻守共に鮮やかなプレーを見せた

が第一回戦も終り第二回戦に移る頃より氣づかされた天候益々險惡化し遂に雨となつた爲め止むを得ず中止し明十七日引續き行ふ事になつた因に昨日の戦績は左の如くである

- △第一回戦 十六區2—0 白銀町 紺屋町8—7 一丁目 南町7—1 五丁目 三丁目2—1 胡摩澤
- △第二回戦 十六區2—5 古鍛冶

劍道大會

昨日の盛況

既報室直與氏の古稀の祝を兼ね昨日午前九時より警中道場にて開催された石城劍道大會の出席者は有段者十七名無段者三十七名、團體七ヶ村に達し頗る盛會を呈したが團體は大野村が優勝し優勝旗を獲得有段者では大野村根本二段、無段では警中五年山形卓君が優勝各々優勝刀を授與された

暖房装置

二年組にも

昨年迄一學年にのみ使用せしめてゐた冬季暖房装置のストーブは今年より第一、第二、第三各小學校共二年の各學級にも備付ける事になつたと

平町人事

- △結婚 回 婚 姻 搔槌小路二七 當時兵庫縣武庫部魚崎町横屋廣瀬浩氏(一九)石城郡泉村字泉佐藤愛子(二二)
- △死亡 回 死 亡 △二丁目二一當時京城府大島町二八鈴木トク(二〇) △四丁目一二富重氏長朝佐藤(治郎)(三七)

外科 X 光線科

性病科

外科科

平町田町

安齊外科醫院

電話四七五番

意隨院入

金銀高價買入

各國時計：眼鏡：貴金屬

御修繕は専門の當店へ

根本時計店

平二(電話六〇七番)

市原醫院

平町田町(電話一一四番)

- 内科 小兒科 市原卯太郎
- 外科 一般、婦人科 市原陸郎
- 外科 梅毒、淋病 市原三三男

入院隨時

三井質店

平四(電話六〇六番)

質物一般

夜九時迄出し入れ致します

吉田眼科病院

平紺町(電話六八番)

防空演習

着陸地は小名濱

所澤陸軍飛行學校では既記の如く来る十八日より九日間小名濱海岸附近で防空演習を実施する事となつたので此程小名濱町役場に飛行機着陸地として海岸砂濱の貸與方を交渉して来た

油が乗つて

食べ頃の風味

東京市場で大受け

秋刀魚漁場愈よ接近

郡下の各濱では愈々秋刀魚群が来月十四日頃より相馬沖合に南下し今後一週間位で石城沖合に移動する模様なので小名濱、江名各濱では小型船迄も出漁準備中であるが漁場が接近した結果小名濱の水揚げ場一尾一錢五厘といふ安値を見て居る尚本郡沖合より漁獲される秋刀魚は期的に最も油の乗り切つた食べ頃のシユンなのでその風味は東京市場に響き移出盛んであると

家出娘が

女給勤め

父親引取る

神奈川縣横須賀市船越一三七支那料理揚徳如長女菊子(一七)假名は去月十日些細の事から親と口論をした儘行衛を晦したが本月二日より

郡下唱歌

第三校で開催

石城郡小學校児童唱歌會は来る十二月九日午前九時より平第三小學校講堂に於て開催する事に決定したが種目は合唱、齊唱、獨唱、遊戯申込締切りは十一月二十日であると

就職兒童

希望を調査

平職業紹介所から来る三月卒業する就職希望兒童の性能検査及び求人開拓の参考として希望職業及び就職希望地の取調べをなしたる二十五日迄回答される様本日聯絡各小學校に照會した

新斜坂に落盤

坑夫一名惨死す

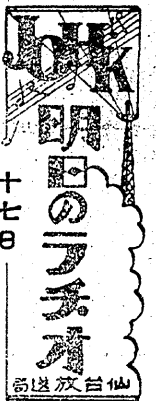
好間村古河炭礦新斜坑内で十四日午前八時頃作業中の坑夫大川原佐善(三三)は落盤に襲はれて即死した

老ひて此喜びあり

至れり盡せりの大歡待

昨日の平町女青敬老會

既報平女子青年團の第五回敬老會は昨日午前九時より第二小學校講堂に開かれ團長會我ワカ子女史の開會の辭に次ぎ總理津田達造氏及



今夜も明日も北西の風曇天氣良なる

今晩の部

後六、〇〇 子供の時間
「おきな兒への新らしき寝ものがたり」上澤謙二
後七、三〇 産業ニュース
後八、〇〇 歌謡曲「隅田川」吉奴 伴奏キングサ
「吉奴」伴奏キングサ
「吉奴」伴奏キングサ
「吉奴」伴奏キングサ
「吉奴」伴奏キングサ

明日の部

前九、三〇 子供の時間
吹奏樂 京橋商業學校音
樂部 指揮山口山口勝治
後一、〇〇 宗教講話
「陸奥座隊淨土宗西山
禪林寺管長西山玄光
前二、四〇 講演「滿州
建國後の現状」法學博士
松波仁一郎
後三、一〇 講演「兒童
の想像生活」東北帝大教
授文學博士千葉胤成
女流演藝の午後
後四、五〇 清元「青海波」
浄るり清元梅美津外
後五、一〇 小唄「逢ふて
別れて」唄小胡津留外
後六、二五 常磐津「釣女」
浄るり常磐津文字三代外
後七、五〇 野球試合實況
東京大學野球聯盟リーグ

豚コレラ又飛火

嚴重な移動禁止

既報鹿島村に豚コレラ五頭發生各方面より警戒されて居た處去る十四日隣村玉川村の駒木根政貴方で飼育中の豚四頭も全部豚コレラと

八十四歳の老媪の

手に成る雑巾百枚

敬老會の御禮にと寄贈

別項平女子青年團の敬老會に招待された仲町大槻スミ(八三)さんは御禮心にも自身で作つた雑巾百枚を持参し第二小學校に寄贈された

稀いな奇病

共済病院で研究

平町共済病院に入院した患者双葉郡久之濱町武右衛門二男新妻武夫(七)君は病名をアグチノミコーゼ(放線状菌病)と云ひ主に牛馬豚

大倉本社勝つ

郡湯本町入山炭礦野球團對大倉東京本社野球團は昨日十五日午前九時より入山グラウンドに於いて行はれたが九對四の成績で大倉本社が勝つた

服部教頭出張

業學校教頭服部甲氏は去る十四日より二日間青森縣八戸市に於て開かれた東北北海道商業學校長會に校長代理として出席した

赤井の運動會

第一小學校では来る十九日午前八時より同校庭で同村男女青年團及び青年訓練所と聯合し秋季運動會を催す

△小間使 十六迄 尋卒
給料面談(平町某)
△小間使 二十一才 平商卒
給料面談(内郷村某)
△事務員 二十九才 平商卒
給料面談(平町某)
△職工 二十七才 尋五
給料面談(赤井村某)
△自動車運轉手 二十二才
高卒 給料面談(平町某)

木村科醫院

平町五丁目橋際
電話九〇三番

平職業紹介所報告

回人を求める方
△女中 十八才 尋卒 月
五圓(四倉町某)
△農夫 五十迄 月六七圓
外面談(夏井村某)
△小店員 十七迄 尋卒
仕着小遣(平町某)



【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴 演
山本英春 畫

第六十六回 血に飢ゆる村正

病人を置き去りに
紺「次郎さん、顔へ膿がたまつてるから痛くないやうにソツと拭いてお呉れ」
次「宜し／＼、今拭いてやると傍らへ寄ると堪りませ

三河屋の方へ問合した所がダンマリで此方へ越して来たものだから、三河屋ぢやア知らねえで次郎吉は何處かへ往つて終つたと返事をしたさうだ、先ぢやア金を拵へて返さうといつて俺を

あるから四五日掛るねえ」
次「然うよ、四五日掛るだらうが、其の代り貸した金が十五兩今の話をすれば十五兩や二十兩は兵藏が貸して呉れるに相違ねえ、かうして苦しがつて居るから往つて来やうと思ふ」
紺「お前、行く錢があるかえ」
次「歸つて来りやア何うでもなるから夜具布團を質に置いて、賣残した道具を叩き賣つたら路銀位出来るだらう」
紺「お前、私が寝てゐるのに夜具布團が失くなつたら

見ると二三兩の金が出来ました、其の中を米の代に少しばかり置いて表へ飛出した次郎吉が、アーマア是で厄介拂ひをしたと根が薄情の奴でありますから其のまゝ病人を置き去りにして江戸を立ち出でまして、木の實は元とやらで野州の佐野犬伏の焼金の鐵藏の所へ参りました、前回陳べて置きました通り目明しをして表向きは蕎麥屋でございます、門口から

次「エー親分御無沙汰をいたしました」
と這入つて来るのを見て鐵藏は
鐵藏「どうした次郎、何處に今まで遊んで居たのだ、娘が流産で死んだ後世帯をしまつたといふから直ぐに此方へ来るかと思つて居たに何をして居たんだ」
次「私もおおきに死に別れ子供は流れて了ふし、坊主にでもならうと思ひました夫から諸方の靈山靈場へ参詣をいたしました、江戸に懇意がございましたから暫らく古着屋をいたして居りました」
鐵藏「幾らか年を取れば人らしい事をいふ様になつたな小松原の親父も阿母も死んだが知りやアしめえ」
次「エーッ親父も阿母も亡くなりましてか、跡は誰がやつて居ります」
鐵藏「お前の弟が跡を繼いで小松原有信と名乗つて醫者をして居るが、大層評判が



紺「アーそんな男が居たつ

次「芝から此方へ来る時彼

奴に俺ア金を十五兩貸して

やつた、其の金で取附いて

今では相州の小田原で大き

な米屋をして居るさうだ、

俺に金を返すといつてせ

探して居るといふ事を昨日

一寸聞いたから、今日は小

田原まで行つて十五兩の金

を三十兩にでもして取つて

来やうと思ふが、何うだら

う」
紺「然うかえ、夫は何より

だが、小田原までは二十里

ア仕方がないよ」

次「四五日ぢやねえか我慢

しねえ、其代り歸つて来り

やア新しい夜具布團で心持

よく寝かしてやる」

と口車に掛てあらひざら

ひ道具を賣つて終ひ、夜具

布團まで賣拂ひ、まとめて

好い」
次「さうでございますか、それぢやア是から直ぐに小松原へ行つて参りませう」
鐵藏「何しに行くんだ、汝は小松原の家を勘當され、人別の消えて居る身体だ、何も家へ行くには及ぶまい、汝の家ぢやアねえ小松原有信の家だ」
次「私ア家へ参りやア致しません、親父や阿母の墓参りに行くのに差支へはございませぬ」
鐵藏「墓参りに行なら宜いが、兩親が亡なつた事を聞いて弟をせびつて金でも持つて来やといふ了簡だらう、其の了簡が直らにやア迎も人間にやアなれねえぞ」
次「決して然んな事はございませぬ、一寸行つて参ります」
ソコソコに鐵藏の家を出て、刻限を圖り明火の點うといふ時分に小松原の實家へ参りました、見ると家も手入をしたものと見えて立派になつて居る様子、さすが良心に恥て暫らく木影に考へて居りました。

御華客様本位の弊店で今回『ひな鳥水たき』季節の松茸料理を始めました。何卒御尊來御試食の程御待ち申して居ります。

ひな鳥 水たき
季節の 松茸料理

◎料理は毎日献立を替えて調理致します。
◎御宴會、出前は如何様にも御相談に應じます。

平町字紺屋町
住吉屋 本店
割烹部
電話一五九番

確實親切は
正木織物店ノ生命也
絹織物、正木織物店へ
開業三十五週年を祝するため
二割引にて大々の勉強御註文
に應ず
御註文ノ時ハ(呼出六七四番)へ店員伺ヒマス
平町字新町貳十貳番(公園下)
白生地 正木織物店
賃織販賣

お醤油は ヤマフル
醤油味噌
たひら 正宗
鯉節 食料品
鹽 屋
山崎合名會社
福島縣平町電話營業部二〇醸造工場
明治生命磐城代理店 山崎與三郎